

# 総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

## 1. 研究課題名

血流量自動計測機能を搭載した超音波画像診断装置FC1-xの有用性

## 2. 研究の対象患者

### ・選択基準

以下の基準をすべて満たす患者さんを対象とする。

- 1) 日常診療下で超音波画像診断装置FC1-xにより上腕動脈血流量計測が行われた透析患者さん
- 2) 上腕動脈血流量計測時に年齢が20歳以上の患者さん
- 3) 性別不問
- 4) 入院・外来は不問

### ・除外基準

特に定めない

## 3. 研究の対象期間

2019年6月1日～2019年12月31日

## 4. 研究の概要

バスキュラーアクセス(VA)は、血液透析を行う際の患者さん側のアクセスルート、つまり血液を人体から脱血したり返血したりするための人体側の出入り口のことである。近年では、透析患者の高齢化、糖尿病性腎症や長期透析患者数の増加に伴い、VAトラブルが問題視されている。これらの患者さんは、自己血管に乏しく、新たに良好なVA作成・維持・管理することが容易ではないことから、現存のVA温存は極めて重要であると考えられる。そのため、VAトラブルの早期発見・早期治療によるVA閉塞の防止に注意を払っておく必要がある。

VAトラブルを予防するための評価としては、透析ごとにモニタリングすることが有効であると考えられ、その手段として、視診による腫脹、怒張、変色の有無、触診によるスリル、聴診によるシャント音などの理学的所見による評価がある。しかし、理学的所見によるVA評価では、個人の経験に基づく相対的評価であることが多く、狭窄の程度や血流低下を正確に評価することは困難である。そのため、VA評価としてX線血管造影検査が一般的に用いられてきたが、非侵襲的な評価方法として、超音波画像診断が近年用いられるようになり、パルスドプラ法から得られる上腕動脈血流量(FV)などの定量評価が可能であり、その有用性を示した報告がなされている。

当院透析センターに導入された血流量自動計測機能を搭載した超音波画像診断装置FC1-x(FC1)について、その有用性を検討する。

## 5. 研究実施予定期間

2019年9月18日～2020年7月31日

## 6. 研究に用いる試料・情報の種類

血流量自動計測機能による上腕動脈血流量計測値(AVF)

手動での血管径計測と角度補正の調整による上腕動脈血流量計測値(MVF)

## 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・研究責任者：透析センター 高岡 祐作

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)